

Common Sense Press

vol.029

Oct.2016

本稿は9月20日放送のBS日テレ『深層NEWS』から、仙谷由人の発言のみをダイジェストしたものです。

●小池百合子東京都知事について

政治的な感性がすばらしいんじゃないかな。洞察力、直感力、それから昔なら「男は度胸、女は愛嬌」っていついたけど、このごろはどちらかというとな女性の方が度胸はありますよね。橋田壽賀子さんのドラマにもあったけど、「女は度胸」。築地市場の問題はどこまで情報を得ているのか、どこまでの見通しを立てているかわからないけど、あそこまで仕掛けていけるのは、今の国会議員でも右に出る人はそうそういないでしょう。つまり情報収集能力、分析能力は突出しているかもしれない。

だけど心配なのは、盛り土の問題もそうだし、なぜああいう空間にしたのかの問題、これは「誰がこのお金をポケットに入れたのか」という問題に発展しかねない。都民からすれば拍手喝采、興味津々で見ているわけですが、問題はここから先。つまり、東京はかつて「コンクリートジャングル」って言うふうに言われたんだけど、ここぐらい無機質な街はないでしょう。人間というのは高いところに行けば舞い上がる、一方、気がつけば地に足がついてない状態になるから、逆にものすごく不安になる。小池さんはちょうど、そういう心理的状态にあるんじゃないか。そのところに豊洲の問題、続いてオリンピックの問題が入ってくると、東京のガバナンスと云うのは容易ならざるを得ないものになる。

さらにいえば、知事選挙で議会と真っ向から対立することになった。地方自治は議会と首長の二元的権力だから、これは難しいだろうなと思います。

●民進党蓮舫代表について

民進党の代表選挙では、蓮舫さんの二重国籍の問題がとやかく言われましたが、あれには日本の戦前の植民地政策もからんでくるし、戦後

処理の歴史も入ってくるわけですよ。つまり、蓮舫さんのお父さんは、台湾で生まれて育ったけれども、1945年8月15日までは日臣民です。そこから先は国籍「中国」と記された外国人登録証を持たされるようになる。その後も東京で仕事をし、生活をし、日本人の女性と出会って結婚をして、蓮舫さんが生まれる。でもそのときは日本国は男性の、つまり父親の国籍しかその子は選べない。そういう女性差別がまだまだあって、ようやく1985年に女性差別撤廃条約を批准して、子は母方の国籍も選べるようになった。つまり日本人の女性から生まれた子どもは日本国籍を得られるようになり、国籍を得たら、そこで命じられて外国人登録証を返納して、法務省入国管理局では外国人登録原票もそこで閉鎖した。だから蓮舫さんは、日本国内ではまごうことなき日本人として活動しているわけでしょう。

そこからわかるのは、日本の戦前の台湾統治、それから女性差別の歴史、それで彼女が17歳のときに国籍を取得したあとの法的な処理、その他もろもろですよ。

●アベノミクスは終わった

安倍総理は1回目の内閣で失敗した。閣僚の不祥事が相次いで、参議院議員選挙に負けて、フラフラになりながらも所信表明演説はやったところまではよかったんだけど、さあ代表質問だというときに突然の辞任。この1年間の政権の失敗をよく勉強しましたよね。これを教訓として、選挙に負けるような事はなるべく言わない、なるべくしない。短期的に受ける政策をやっていく。これに徹していますよ。アベノミクスはその典型ではないですか。「3本の矢」といって、第1の矢である金融緩和、第2の矢の公共投資。日銀にばんばんお金をまかせて、円安になって日経平均での株価が上がる。1800ある東京証券取引所全体での上場された株価を上げるんじゃなくて、225銘柄の日経平均が上がればいい。さらには、第3の矢である構造改革はどうしたのか。中長期的な事はほとんどやらない。つまり、憲法改正にしる、彼がずっと言ってきた極東裁判のけしからん論をちゃんと胸にしまって口に出さないようにしているわけ

でしょう。満州事変などの歴史の問題も本当は言いたいけれども、言わないようにしています。こうして短期的なことのみをやることによって、高い支持率を維持している。

アベノミクスについても、そもそも我々が言ってきた、農業の6次産業化、アジアへのインフラのパッケージ輸出、言葉を変えているけれども私が国家戦略大臣のときに書いた計画をそのままやっている。というのは、そのとき私たちと一緒に仕事をしていた官僚たちと同じ人たちがやっているんだから、それは同じになりますよね。

それにクロダノミクスみたいなことは、絶対にやってはいけない。実体経済と関係がない。アベノミクスはもう終わった。アベノミクスでやったことは債権バブルであり、株式バブルであり、円安バブルであり、不動産バブルにすぎない。こんな官製マーケットは維持できないからもう終わる。日銀はマーケットから国債がなくなるぐらいまで買っている。国債だけではなく株式も買っている、債権も買っている、民間企業が窒息するぐらい官製市場になっている。

消費増税について、少なくとも4年前の民主党政権のときには必要だと自民党も公明党も民主党も認めて導入した。財政の規律の問題、社会保障をどうやって賄うかという問題、子育ての問題もある、教育の問題もある。教育や子育てにお金が払えないような人たちのために国が面倒を見るように、消費税を上げましようとなった。

そうして合意をしたのに安倍内閣になって、選挙に都合が悪いからといて消費増税を延期にした。「新しい判断」だのと、苦しい言い訳をして延期をした。問題はここからで、国会議員全員が選挙を目の前にしてやらなければいけない事から逃げている。それは大平内閣、中曽根内閣、竹下内閣、みんな消費増税で選挙で苦しんだ記憶がよみがえっているわけだ。

これは日本にとって誠に困った話で、今しいているのは日銀が無理やりに円安にして、金利を下げてしいているだけで、これをマーケットに任せるとなると、次はどんどん上がっていく。上がっていかないとおかしい。上がっていくから財政をきちんとしようよという規律が働

く。これが今まで人類の知恵というか国債を発行するときには、マーケットの声を聞く、マーケットの警告を受け入れる、政策も考えましようというのが人類の知恵だった。それを全部吹っ飛ばしたのが黒田日銀総裁、あの人に異次元の緩和をさせた、異常なことをどんどん続けさせた。

憲法問題は、野党の時に極端な草案を作って、今与党になってそれを持ち出すと選挙に不利になるから、その草案での議論をやっていない。安倍さんは自民党総裁選挙のときに、途中まで3番手だった。それを対中強硬、対韓強硬を打ち出すことによって総裁選に勝った。

尖閣諸島に「船だまりを作って公務員を常駐させる」というていた。覚えてますか？拍手喝采を浴びた。それをなぜやらないのかと今批判しないのは、良識があるから蒸し返して批判しないだけで。鳩山内閣の「米軍基地は県外移設」発言とほとんど同じ。鳩山内閣では、辺野古ではなく県外移設と勢い余って言ってしまった。それをかさにかかって批判されて鳩山内閣は潰れてしまった。ところが、今となっては、辺野古じゃなくても良いのではないかという議論も沖縄を中心に増えている。

この国会は、日本が直面する最大の課題は何か、ということをちゃんと議論してほしい。

それは安全保障の問題ではなく、人口の問題だろう。労働力人口の縮小はどうしようもない難しい問題だ。国民は真剣になって考えなければいけない。

もう一つは、アベノミクスの反対側にある財政規律をどうするか。社会保障と教育、ちゃんとできるような体制をきちんと構築できるかどうか。繰り返すけれども、アベノミクスはもう終わっています。

コモンセンスプレス vol.029

2016年10月発行

株式会社コモン・センス

105-0004 東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル
402-1

tel. 03-5521-1021

fax. 03-5521-0150